

公益財団法人日本宇宙少年団 令和7年度 事業報告書

はじめに

当財団が実施するスペースキャンプは、夏休みや春休みに開催しており、毎年定員を超えるほどの高い人気を博しております。事業の実施にあたっては、米国 Northrop Grumman のご支援を受け、物価高騰への対応を図りながら、従来どおりの参加費を維持し、参加者負担の軽減に努めました。

また、冊子「宇宙のとびら」に同封する付録教材につきましては、公益財団法人上廣倫理財団の助成により、ペーパークラフト教材2種類を製作することができました。さらに、米国 Akamai 財団の助成を受け、今年度も2年目となる「水ロケットシミュレーター」を活用した STEM 教育活動を実施しました。

宇宙開発への関心が高まり、次世代を担う青少年育成の重要性が一層高まるなか、日本宇宙少年団活動を支えてくださる賛助会社のご協力もあり、会費を値上げすることなく維持できるよう、厳しい運営環境の中で努力を重ねてきました。

以上のとおり、令和7年度の事業内容につきまして、下記のとおりご報告申し上げます。

I. 人材育成事業（公1）

1. スペースキャンプ事業
2. 情報発信（宇宙情報誌等）事業
3. webによる普及啓発事業
4. 理事会及び評議員会の開催

1. スペースキャンプ事業

（1）種子島スペースキャンプ

ロケット打上げ射場がある種子島において、「宇宙・自然・交流」をテーマに、さまざまな体験学習を実施しました。参加者はグループごとに目標を設定し、最終日の体験発表では、その達成状況や学びについて発表を行いました。

中でも、iPadを用いて水ロケット打上げシミュレーション最新版を活用し、空気圧・水の量・発射角度などの条件が飛距離に与える影響について検証しました。シミュレーション結果と実際の飛行結果を比較する中で、思い通りに飛ばなかった原因を振り返り、機体を丁寧に製作することや、結果を分析して改善につなげることの重要性を学びました。また、自分たちが製作した水ロケットの設計や組み立て精度が飛行性能に大きく影響することを実感し、観察力や探究心を深める機会となりました。

さらに、実験結果や気づきをグループ内で共有しながら活動を進めることで、コミュニケーション力の向上や、互いに協力して課題解決に取り組む姿勢の育成にもつながりました。

時期：2026年3月26日（木）～29日（日） 3泊4日

場所：鹿児島県・市内及び種子島

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般 40名

講師：小谷勲氏（ロケットエンジニア）

支援：Northrop Grumman、南九州ファミリーマート

行程：

スケジュール	主な内容
1日目 (種子島泊)	鹿児島市内 集合 開校式、夕方高速船で種子島へ移動
2日目 (種子島泊)	JAXA増田宇宙通信所 見学 地元西之表市保健センター協力により郷土料理の昼食 鉄砲館見学 ロケット講義 水ロケットシミュレーターの説明と水ロケット工作
3日目 (種子島泊)	水ロケット打上げ JAXA種子島宇宙センター 見学 グループ毎に体験等発表
4日目 (一)	種子島空港または鹿児島港で解散

（２）筑波スペースキャンプ

茨城県筑西市にある「ユメノバ」において、日本実験棟「きぼう」をはじめとする関連機器の搬入作業の様子を見学しました。実際に宇宙機を運搬する大型コンテナの大きさを体感するなど、普段触れることのできない貴重な機会となりました。

また、「きぼう」をはじめとする実験機器類について、当時実際に開発や運用に携わった経験者の講師より解説を受け、宇宙飛行士の訓練活動の歴史や宇宙開発の現場について直接学ぶことができました。

さらに、国立科学博物館と「ユメノバ」を運営する広沢グループが共同で設立した科博廣澤航空博物館（「ユメノバ」内）の見学では、ここでしか見ることのできない貴重な展示や資料に触れ、航空・宇宙分野への理解を深めました。

そのほか、開発2年目となる水ロケットシミュレーションを活用し、水ロケットの工作および打上げ活動を実施しました。シミュレーション結果と実際の飛行結果を比較・検証することで、ものづくりの工夫や改善点を考える力を養いました。宇宙の“ホンモノ”に触れる見学体験と、自ら手や思考を動かして挑戦する水ロケット活動を通じて、参加者の宇宙技術に対する理解と探究心を育む、有意義な学習活動となりました。

時期：2025年8月8日（金）～11日（月） 3泊4日

場所：ザ・ヒロサワ・シティ「ユメノバ」、JAXA筑波宇宙センター

対象：小学4年生～中学生の団員及び一般 32名

講師：柳川孝二氏（YAC相談役／JAXAOB）、上垣内茂樹氏（YAC理事／JAXAOB）

支援：Northrop Grumman

行程：

スケジュール	主な内容
1 日目 (ユメノバ泊)	都内集合 「ユメノバ」でオリエンテーション コミュニケーションパズルでチームビルディング
2 日目 (ユメノバ泊)	水ロケットシミュレーション講義 水ロケット工作、打上げ、結果まとめ、発表
3 日目 (ユメノバ泊)	ユメノバ内の航空博物館と宇宙館 貸切見学 JAXA筑波宇宙センター 見学
4 日目 (一)	体験発表 都内移動、着後解散

2. 情報発信事業

(1) 宇宙情報誌「宇宙のとびら」の発送

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として宇宙情報誌「宇宙のとびら」の編集に協力し、年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、団員や賛助企業等への発送をはじめ、分団活動や財団事業で配布し広報活動等に役立てました。

【発行】

- 6月：No.072「大西宇宙飛行士 ISS 長期滞在！」夏号
- 9月：No.073「おつかれさま！数字で見るH-IIA」秋号
- 12月：No.074「油井宇宙飛行士がHTV-X1をキャッチ！」冬号
- 3月：No.075「月まで置き配可能です「HTV-X」徹底解剖」春号

(2) YAC通信の発行

イベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介等の情報をまとめた「YAC通信」を年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送しました。

(3) 付録教材の発送

子ども達の宇宙への興味・関心を高める簡易教材を開発し、宇宙情報誌「宇宙のとびら」に同封し、YAC団員及び関係者へ発送しました。

中でも、9月と12月の教材は、公益財団法人上廣倫理財団の助成金で製作し、H3ロケットペーパークラフトを2回に分け、シリーズ化として配布しました。
さらに12月の教材では、H3ロケットに「きみの衛星」を搭載しよう！として子ども達が考えた衛星の作品を募集し、結果はYACホームページで公開しました。

- 6月：学習教材「一家に一枚」量子と量子技術 ポスター
- 9月：「H3ロケットペーパークラフト 第一弾」（公益財団法人上廣倫理財団）
- 12月：「H3ロケットペーパークラフト 第二弾」（公益財団法人上廣倫理財団）
- 3月：学習教材「一家に一枚」身近な現象から知る地球 ポスター

(4) 団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付し、継続団員は団員証、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を制作・送付しました。

(5) 団員管理システムの維持管理

財団独自に構築している団員管理システムにより、分団活動及び団員一人一の個人情報の適切な管理に努めています。

ホームページのリニューアルに伴い、分団活動等のページを見やすく改善したことで、分団活動の予定や実施報告を迅速に掲載できるようになり、新たな情報発信の充実にもつながっています。

また、今年度より、元団員の皆さんを対象に「YACフェロー」のページを設け、YAC活動の応援・参画を呼びかけています。

3. Webによる普及啓発活動

(1) 分団等連携団体との協力推進

①分団等との連携協力

宇宙および科学技術を共通の題材とした子どもたちの人材育成には、全国の分団との連携・協力が不可欠です。そのため、活動委員会を中心に、全国の宇宙少年団分団との連携を推進し、体系的な指導法や共通の育成方針の共有に取り組んでいます。

本年度は、その一環として、分団活動の紹介や教材の共有、意見交換や交流を目的とした「分団長会議」を、11月22日（土）に神奈川県相模原市の「国民生活センター相模原事務所」で開催しました。分団長会議は対面とオンラインの併用により、参加しやすい環境を整えたことで、今年も多くの方に参加いただきました。

また、2025年度を通して顕著な分団活動を実施した分団ならびに、衛星データ利用コンテスト受賞者およびYAC水ロケットコンテスト受賞者に対し、山崎理事長より表彰を行いました。

②活動委員会

分団などの連携団体との協力を進めるために、活動委員会では今年度も引き続き、以下の取り組みを実施しました。

- ・第15回衛星データ利用コンテスト
- ・第12回だいち2号に写ろう
- ・分団長会議
- ・宇宙教育指導者セミナー
- ・YAC分団の活動実態調査、分団のWebサイト報告活性化、分団表彰
- ・活動教材の充実
- ・新たな挑戦地球型惑星を目指して「YAC全国ワークショップ」
- ・YACかわら版
- ・宇宙教育誌の発行
- ・全国水ロケット大会「YAC水ロケットコンテスト2025」

③宇宙教育指導者セミナーの開催

社会教育団体活動の指導者育成を目的とするセミナー（高校生を除く18才以上を対象）を、JAXA宇宙教育センターと（公財）日本宇宙少年団が主催となり、全国の開催地域と連携協力しながら、現地対面受講とオンライン受講を合わせたハイブリッド方式で今年度も以下のとおり全国で年10回実施しました。

- ・第1回宇宙教育指導者セミナー(対面・オンライン併用開催)
2025年6月1日(日) X-NIHONBASHI (東京都中央区)
- ・第2回宇宙教育指導者セミナー(対面・オンライン併用開催)
2025年6月29日(日) 広島 YMCA 国際文化センター (広島県広島市)
- ・第3回宇宙教育指導者セミナー(対面開催)
2025年7月27日(日) 角田宇宙センター (宮城県角田市)
- ・第4回宇宙教育指導者セミナー(対面開催・オンライン併用開催)
2025年9月7日(日) 北海道情報大学 (北海道江別市)
- ・第5回宇宙教育指導者セミナー(対面開催)
2025年9月21日(日) 和歌山市西コミュニティセンター (和歌山県和歌山市)
- ・第6回宇宙教育指導者セミナー(対面開催・オンライン併用開催)
2025年10月19日(日) 筑波宇宙センター (茨城県つくば市)
- ・第7回宇宙教育指導者セミナー(対面開催・オンライン併用開催)
2025年11月30日(日) カルチャースペース鎌倉大井ビル (神奈川県鎌倉市)
- ・第8回宇宙教育指導者セミナー(対面開催・オンライン併用開催)
2025年12月21日(日) 八女市民会館 おりなす八女 (福岡県八女市)
- ・第9回宇宙教育指導者セミナー(対面開催・オンライン併用開催)
2026年2月1日(日) 名古屋都市センター第3会議室 (愛知県名古屋市)
- ・第10回宇宙教育指導者セミナー(対面開催・オンライン併用開催)
2026年3月1日(日) ちよだプラットフォームスクウェア (東京都千代田区)

④JAXA諏訪宇宙飛行士とYAC山崎理事長の対談

ヒューストンで訓練中の諏訪宇宙飛行士と山崎理事長をオンラインで結び、同じ「宇宙飛行士」という立場から、それぞれの「挑戦」をテーマとした対談を、YAC室山理事の進行により収録しました。

対談では、子ども時代のエピソードや、苦手だったこと、今でも印象に残っている失敗談なども交えながら語られ、夢に向かって挑戦している子どもたちだけでなく、まだ自分の夢を見つけられていない子どもたちにも寄り添う内容となりました。

(2) 活動マニュアル等のweb公開

YAC指導員のみならず広く一般に、活動教材集や宇宙教育誌をwebで公開し、活動の素材提供を提供しました。

(3) webを通したイベントの取組み

財団主催及で実施するコンテストや団員のみならず広く一般を参加対象とするイベントなどの募集や実施結果等をwebで公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行いました。

今年度は、上廣倫理財団助成事業の一環として、以下のオンライン教室を4回実施しました。特に、「ハローヒューストン」は、YAC大使の諏訪宇宙飛行士に登場いただき、子ども達からのたくさんの質問に答えてもらいました。

テーマ／天文 2026年2月14日(土) 9:30～11:00

テーマ／宇宙開発 2026年2月15日(日) 9:30～11:00

テーマ／ロボット 2026年2月15日(日) 13:30～15:00

テーマ／宇宙飛行士「ハローヒューストン」 2026年3月21日(土) 9:00～10:30

YouTubeで「オリオン乗員生命維持システム」のペーパークラフト教材の作り方を配信するとともに、新たに開設したInstagramでは財団事業に関連する投稿を行い、フォロー数も徐々に増加しています。

(4) 講師派遣等

①外部への講師派遣

広く一般を対象に、宇宙および科学に関する知識の普及啓発と宇宙教育の推進を目的として、外部からの依頼に応じてリモートおよび対面によるイベントへ当財団役職員を講師として派遣し、以下のとおり普及活動を行いました。

- ・ノースロップ・グラマン Space Camp JAXA筑波宇宙センター研修
- ・セシオン杉並夏の企画展「宇宙を目指せ！ロケットのヒミツ展」天文トーク
- ・えひめ宇宙フェス in なんよ
- ・日本科学未来館宇宙兄さんズがやってくる！一緒に火星グルメツアーを企画しよう
- ・宇宙航空フェス in イオンモール常滑における宇宙兄さんズトークショー
- ・福井県川西中学校 講演
- ・ぐんまスペースアワード2025宇宙兄さんズと学ぼう！
- ・名古屋大学機会航空系同窓会 講演
- ・NHK「月のサバイバル」編 シナリオ・絵コンテ・映像監修
- ・留萌市 寺子屋・るもいつこ事業 宇宙兄さんズトークショー
- ・岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 宇宙兄さんズと一緒に楽しく宇宙について学ぼう！
- ・那智勝浦町 水ロケットワークショップ
- ・角田市スペースタワー・コスモハウス 宇宙教室
- ・成田航空少年団 講演

②連携団体(分団)への講師派遣

日本宇宙少年団分団からの講演依頼に対し、宇宙及び科学をテーマに合わせ、当財団役職員を派遣しました。

- ・東松山分団(2025年4月12日)
- ・かくだコスモ分団(2025年4月27日)

- ・ 逗子分団（2026年3月7日、3月15日）

4. その他事業

Akama i 財団（アメリカ企業）「グローバルSTEM教育助成金プログラム」の2年目が終了し、バージョンアップした水ロケット飛翔シミュレーションを用いた実証実験を行いました。

子どもたちは水ロケットを工作するだけでなく、打上げイメージの試行錯誤を通じて、科学的な視点から物事を考える姿勢が育まれ、空気圧や水の量、発射角度などが飛距離にどのように影響するかを事前に理解できたことで、実際の打ち上げでは目的意識と観察力が高まりました。また、水ロケットシミュレーションを使う前の導入動画、ワークシートを財団ホームページで公開し、誰でも自由に利用できるようにしました。

II. 管理運営等

（1）理事会

令和7年度 第1回理事会

- 1 日 時 令和7年6月4日（月）14時59分より
- 2 開催形式 対面およびweb会議システム「Zoom」による開催
- 3 審議事項
第1号議案 令和6年度事業報告書(案)及び収支決算書(案)について

令和7年度 第2回理事会

- 1 日 時 令和8年3月2日（月）14時より
- 2 開催形式 対面およびweb会議システム「Zoom」による開催
- 3 審議事項
第1号議案 令和8年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)について
第2号議案 2026年度のYAC活動委員会のミッション案及び活動委員の選任について

（2）評議員会

令和7年度 定時評議員会

- 1 日 時 令和7年6月23日（月）15時より
- 2 開催形式 対面およびweb会議システム「Zoom」による開催
- 3 審議事項
第1号議案 第1号議案 定款の定について
第2号議案 令和6年度事業報告及び計算書類等承認の件
第3号議案 評議員1名選任の件

3. 会 員

活動委員会では、定期的に全国の分団活動状況調査や分団活動報告を確認し、全国の分

団活動の現状や今後の活動計画の把握に努めています。

また、日本宇宙少年団は2026年に設立40周年を迎え、これまでに多くの団員やリーダーが巣立ち、それぞれの分野で活躍しています。

こうした中、かつての団員が再びYACの仲間として活動に関わってくれる機会も増えてきており、今後さらにYAC団員数の増加と活動の広がりにつながっていくことを期待しています。

会員（団員）数の推移については、昨年度に続き本年度は、全体として新規団員は増加傾向にあり、これは普及啓発活動を通じて当財団の活動への関心が徐々に広がったことが影響していると考えられます。次年度においても、こうした施策や工夫を継続的に実施し、さらなる団員の増加を目指してまいります。

4. 事務局体制

事務局体制は、基本的に、事務局長と旅行業務取扱責任者を併任する常勤1名と事務局員常勤2名、非常勤1名の計4名で事業の運営及び管理業務に当たり、団員発送業務やスペースキャンプ事業、助成を受けた活動には、支援要員を増やして実施しました。

以上

令和 7 年度事業報告附属明細書

令和 6 年度事業報告において、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しません。